

カナダの落葉果実事情(リンゴ)

米国農務省GAINレポート 2023年11月3日

これは米国農務省海外農業局オタワ事務所(カナダ)が作成した「落葉果実年次報告書」のリンゴの項の一部を翻訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

表1 カナダの生鮮りんごの生産需給統計

リンゴ 生鮮 カナダ	2021/2022		2022/2023		2023/2024*	
	販売年度は7月～翌年6月					
	米国農務省 公式	当事務所 今回推計	米国農務省 公式	当事務所 今回推計	農務省 公式	当事務所 今回推計
生産量	347,125	347,125	360,000	376,023	0	365,000
輸入量	205,800	205,852	195,000	184,867	0	190,000
総供給量	552,925	552,977	555,000	560,890	0	555,000
国内消費量	498,425	498,502	495,000	498,501	0	497,000
輸出货量	54,500	54,475	60,000	62,389	0	58,000
総仕向量	552,925	552,977	555,000	560,890	0	555,000

注:「当事務所今回推計」は当オタワ事務所の評価を反映しており、米国農務省の公式データではない。

単位はヘクタールまたはトン / *は当事務所の予測値

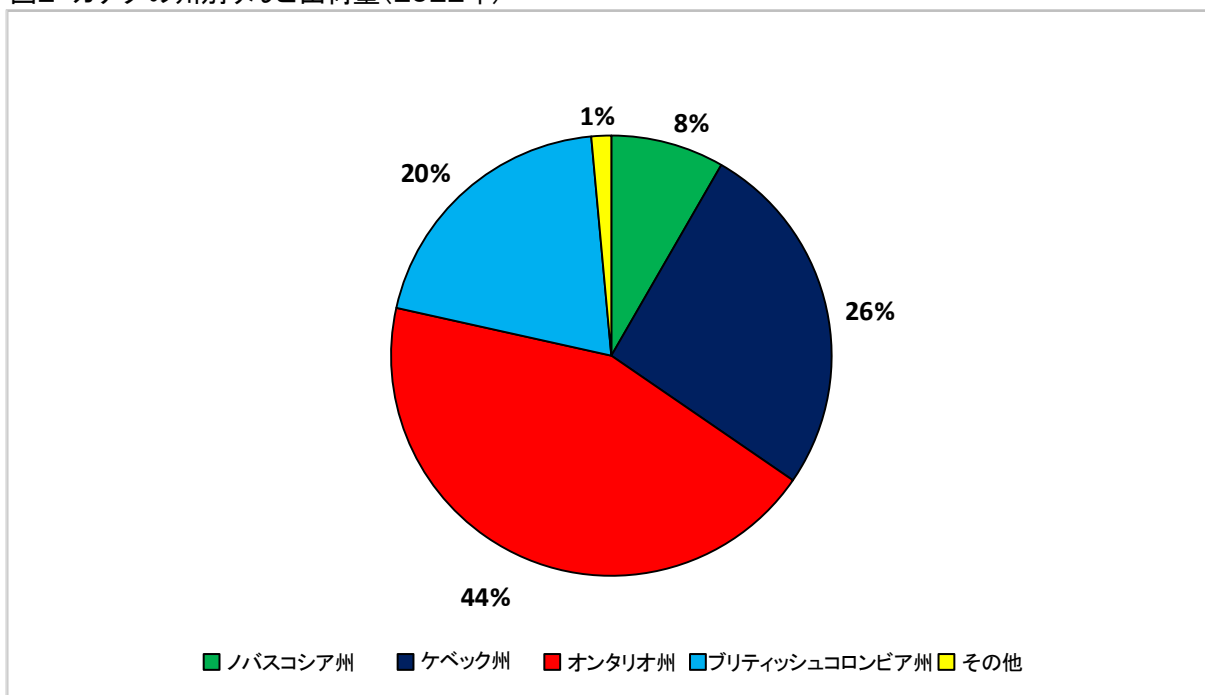
当事務所は、悪天候によりカナダ国内のいくつかの産地が悪影響を受けたため、カナダの2023/24年度のリンゴ生産量は3%減少すると予測する。輸入量は、生産量の減少を補うため前年比で3%増えると予測される。輸出货量は、国内の減収により7%減少すると予測される。

生産

当事務所は、カナダの2023/24年度のリンゴ生産量が前年度に比べ3%減少すると予測する。暑さ及び干ばつから降霜、降霜まで重大な気象現象が全国で生産に悪影響を及ぼしたが、一部の州では夏の生育条件が予想よりも良好であったため、以前の収穫量予測を上方修正した。ケベック州及びブリティッシュコロンビア州(原文のまま)では生産量が前年比で最も減少するものと予測される。一方、オンタリオ州は夏の適時の降雨の恩恵を受けたことから、当初の収穫見通しを上方修正した。国内の総生産量は過去5年間の平均を4%下回ると予測される。

オンタリオ州は引き続き最大の栽培面積を維持しており、最大のリンゴ生産州である。同州ではシーズン序盤に局地的にかなりの降霜があり、寒いスタートとなった。当初の予測では8%以上の減産が見込まれたが、その後の予測ではこれを上方修正し、現在、2023/24年度の実生産量は前年度比2%減と予想される。降霜はオンタリオ州東部とジョージア湾地域の一部の園地に大きな影響を与えたが、夏には州の大部分でタイムリーな雨が降り、7月と8月の生育条件が良好であったため、多くの園地で当初の予測を上回る生産量に達した。果実の状態も品質と色が良いと考えられている。リンゴは保存が利くはずであり、品質的に加工よりも生鮮市場に仕向けられるリンゴの割合が引き続き高いと見られる。州全体で果樹園の近代化が進み、現在ではほとんどの果樹園が密植されている。生産者の高齢化と経営継承の計画がこの産業の今後の成長にかかわる要因と見られる。

図2 カナダの州別りんご出荷量(2022年)



出典: カナダ統計庁

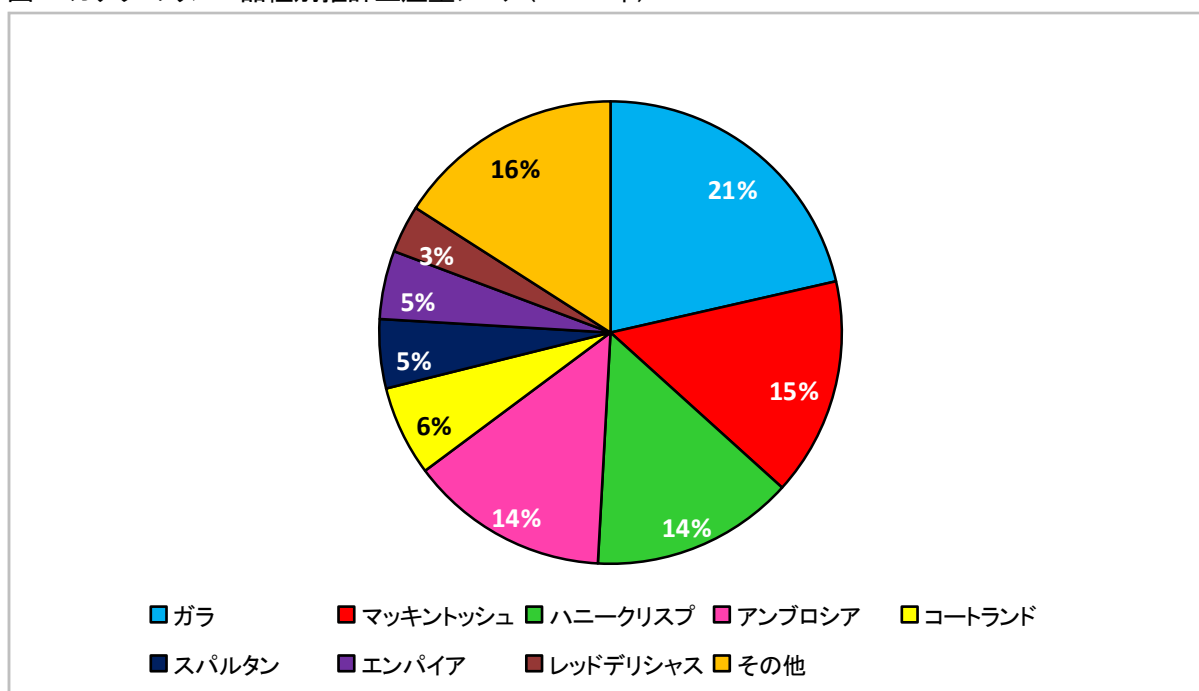
ケベック州の2023/24年度の生産量は、当初の見通しでは2022/23年度と比較して20%減少すると予測されていた。深刻な降霜など生育初期の不利な条件が、一部の果樹園で生産にかなりの影響を与えた。降霜により、一部の果樹園では外側の列の果樹がすべての果実を失った。初秋の見通しでは、予測される損失がわずかに減少したものの、それでも5年間の平均を17%下回ると予測される。ケベック州では、厳しい生育条件の結果、加工用に仕向けられるりんごが多くなると見られる。

ブリティッシュコロンビア州の生産量は2022/23年度を上回ると予測される。熱波と干ばつが2023/24年度の減収要因であったが、干ばつによる損失は灌漑によって緩和された。熱波は収穫量を減少させ、予測生産量は、2022/23年度を大きく上回るとの当初の予測を下方修正した。同州を襲った山火事は、直接的には果樹園に大きな被害をもたらさなかった。ただし、収穫時までには解除されたものの避難指示が出され、退避により果樹園の管理作業に影響が出た。果実の色は素晴らしいと報告されている。

ブリティッシュコロンビア州の生産者らは市場をめぐり、国境のすぐ南に隣接する米国ワシントン州産のりんごとの激しい競争に直面している。ブリティッシュコロンビア州では、りんご園の収益性が数年前から課題となっており、多くの土地が他の品目、特にサクランボとブドウに転換されている。同州には州の改植プログラムがあり、今年にはさらに数エーカー(数ヘクタール)のりんごが伐採されると予想され、それらの土地に来年再びりんごが植えられることはなさそうである。価格の見通しと安定性の改善に向けて、業界は同州でのりんごの秩序あるマーケティングを確立するための調査を開始し、州はこの研究に資金を提供した。この研究は今年の夏に完了することが予定されていたものであり、結果に関する業界内の議論が続いている。伝えられるところによると、この取組みは同州の生産者の間では支持されているが、出荷業者にはあまり支持されていない。

ニューブランズウィック州及びノバスコシア州をはじめとする沿海部の州では、2023/24年度の実産量が概して増加すると予測される。ハリケーン「リー」はそれらの州の南西側に上陸し、ニューブランズウィック州に影響を与えたが、2022年のハリケーン「フィオナ」と比べると、その影響に関する報告は少ない。

図3 カナダのリンゴ品種別推計生産量シェア(2023年)



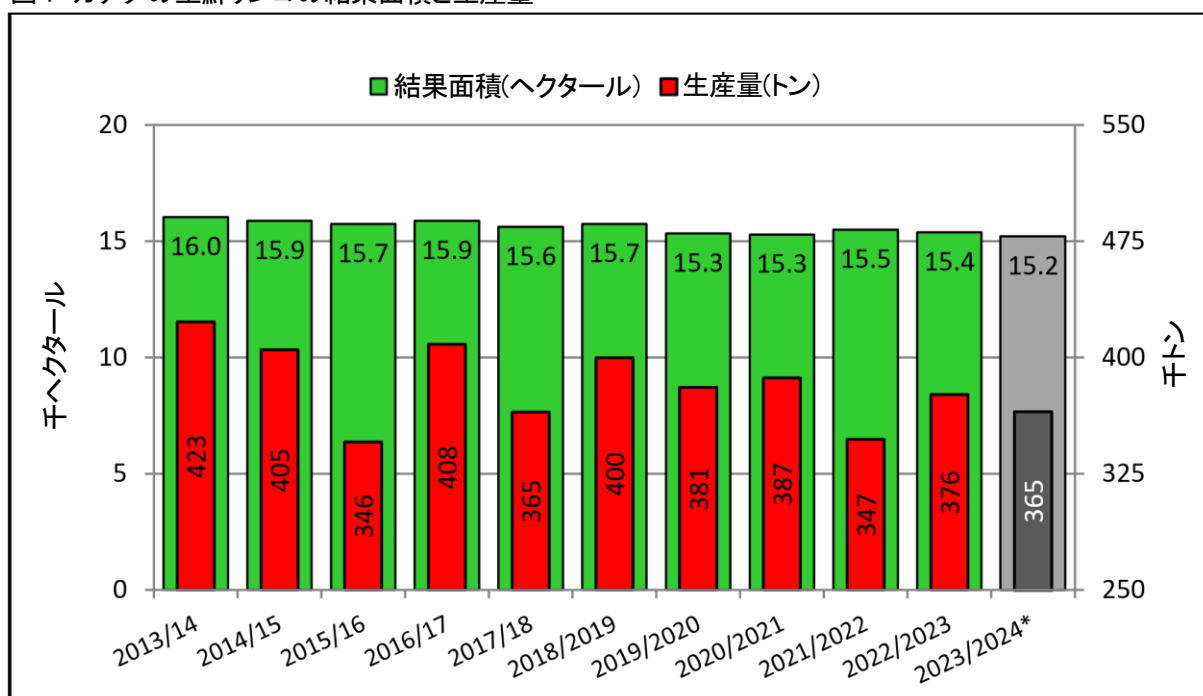
出典: カナダ果実野菜生産者協会 早期作柄予測調査

品種に関しては、オンタリオ州の主要品種はガラ、ハニークリスピ、アンブロシア及びマッキントッシュである。生産者は改植の際に、より新しく、より収益性の高い品種を選択するため、マッキントッシュの栽培面積は減少を続けている。ケベック州は依然として国内で最も多くマッキントッシュを生産しており、マッキントッシュは引き続き同州内で最も多い品種となっている。ブリティッシュコロンビア州は引き続きアンブロシアの最大の産地であり、ガラが同州で2番目に多い品種となっている。ノバスコシア州アナポリスバレー地域の気候条件はハニークリスピの生産に適しており、同州の生産量のほぼ半分をこの品種が占めている。オンタリオ州、ケベック州、ブリティッシュコロンビア州などの大規模な生産州に比べて総栽培面積は小さいが、ノバスコシア州はカナダで2番目に大きなハニークリスピの産地である。

当事務所は、2023/24年度の栽培面積がわずかに減少すると予測する。この減少は、ブリティッシュコロンビア州でリンゴの栽培面積の減少が続いており、また果樹園の改植に当たって密植栽培への転換が続いているためと考えられる。2023/24年度の収穫面積も、2022/23年度から1%以上減少し、過去5年間の平均を下回ると予測される。降霜により芽が損傷し収量が低下したため、収穫される面積が減ると見られる。

労働力の確保は引き続き、この業界にとっての1つの課題となっている。オンタリオ州とブリティッシュコロンビア州がそれぞれ2023年10月と2023年7月に州の最低賃金を引き上げたことで人件費は上昇を続けている。これにより、2023/24年度中に随時生産者のコストが上昇し、今後もその傾向が続くと見られる。生産者はまた、投入資材のコスト上昇にも引き続き直面している。同時に、カナダでは食品価格に大きな関心が寄せられており、国内の大手小売業者の間ではその安定が求められている。生産者は消費者の負担を低く抑えるというプレッシャーに直面しているが、生産コストが上昇する中、生産者は効率を改善する方法を見つけるか、そうでなければ生産コストの上昇により収益が減少する可能性がある。

図4 カナダの生鮮リンゴの結果面積と生産量



カナダにおける生鮮リンゴの販売年度は、7月から翌年の6月である。

出典: カナダ統計庁 / *は当事務所の予測

輸出

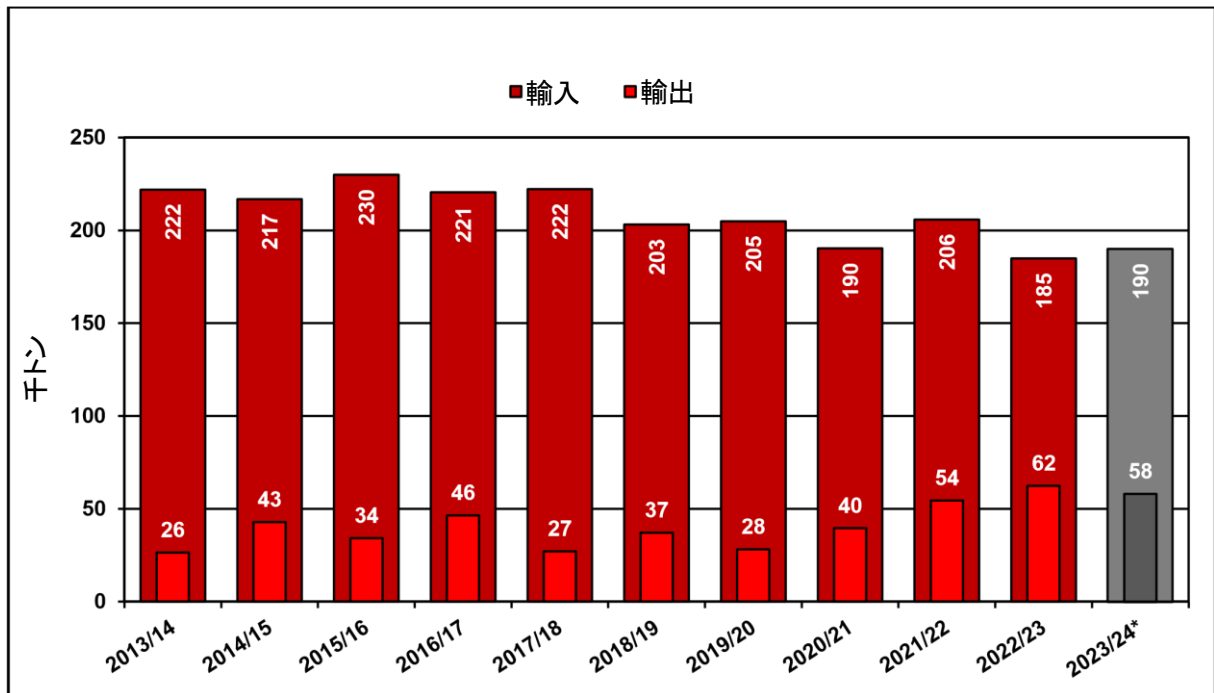
カナダの生鮮リンゴの輸出の生産量に占める割合は、2019/20年度以降増加している。輸出量は、かつては生産量全体の10%以下であったが、近年は輸出の比率が上昇し、過去3年間の平均は14%となっている。カナダの生産量も悪天候の影響を免れていないが、世界の一部の地域での天候による生産への悪影響は、カナダの輸出にチャンスをもたらしている。また、カナダ国内の加工能力が限られているため、品質に問題がある年には、加工用のリンゴの輸出可能量が多くなる。2023/24年度は品質は良いが生産量は減少すると報告されており、当事務所はカナダのリンゴ輸出は数量ベースで7%減少すると予測する。世界的な生産量の減少により引き続きカナダ産リンゴの輸出機会が生じるため、全体の生産量に占める輸出の割合は比較的安定すると見られる。環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的な協定(CPTPP)への参加により現在無税となったベトナム市場に、カナダは引き続きより多くのリンゴを売り込むべきである。しかし、ニュージーランドの輸出業者がアジア市場への輸出に注力しており、またニュージーランドからベトナムへもリンゴを無税で輸出できると報じられており、カナダの輸出業者は、ニュージーランド産の減収にもかかわらず、その貯蔵リンゴとの競争に直面することになる。カナダとインドの間の地政学的な緊張と、米国産リンゴのインドへの輸出に対する追加関税の撤廃により、2023/24年度のインド市場へのカナダの輸出量は減少する可能性が高い。米国は、地理的な近さから、カナダの輸出にとって引き続き重要な市場である。

表3 カナダの生鮮リンゴ輸出量

		カナダ 生鮮リンゴの輸出量					
販売年度: 7月～6月/数量(トン)		2017/18	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23
世界		27,092	37,072	28,177	39,536	54,475	62,389
	加工用	17,752	20,320	15,445	20,534	20,071	24,048
	その他	9,340	16,752	12,732	19,001	34,404	38,341
米国		18,762	22,896	14,802	20,887	21,548	24,771
	加工用	3,968	8,335	4,420	5,118	5,156	4,548
	その他	14,793	14,560	10,382	15,770	16,392	20,223
ベトナム		2,220	5,051	9,608	8,645	23,365	31,692
インド		0	0	0	2,702	4,198	1,170
キューバ		3,367	5,787	975	1,564	1,210	646
その他の国		2,743	3,338	2,792	8,440	8,352	5,280

出所: Trade Data Monitor

図8 カナダの生鮮リンゴの貿易量



出所: Trade Data Monitor / *当事務所の予測